

健診内視鏡におけるバレット食道の10年間での経時的変化についての検討

1. 研究の対象

2014年1月1日～2024年12月31日の期間に健診の上部内視鏡検査を施行し、2014年12月31日から2024年12月31日の期間にも最低1回は内視鏡検査を行っている40歳以上の方。

参加施設：秋田大学医学部附属病院、本荘第一病院、市立横手病院、JCHO秋田病院、由利組合総合病院、大曲厚生医療センター

2. 研究目的・方法

最近、食道腺癌といわれる癌が増えてきています。欧米では多い癌であり、バレット食道と呼ばれる領域が発生しやすい事が分かっています。そのため、健診の内視鏡検査でバレット食道を発見した場合は、その後も定期的に観察する事が勧められます。特に、3cm以上のバレット食道であるLSBEからの発癌が高率です。私たちは、以前に行った研究において50歳頃にLSBEを多く認める事を確認しました。従って、50歳時点でのLSBEを確認する事が重要になる可能性があります。この発見を基に今後のバレット食道の観察をより有用にするために、バレット食道の10年間での長さの変化、及び変化に影響する事柄について研究しようと考えています。

研究方法：

2014年の1月から12月の期間に参加施設において健診の上部内視鏡が行われた症例の診療録や内視鏡画像を参考に、2024年12月31日までのバレット食道の状態を判定します。

研究実施期間：研究実施許可日～2029年3月31日

試料・情報の利用及び提供開始予定日：2025年8月26日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：上部消化管内視鏡所見、性別、年齢、身長、体重、喫煙歴、飲酒歴 等

4. 外部への試料・情報の提供

本研究においては、本荘第一病院、市立横手病院、JCHO秋田病院、由利組合総合病院、大曲厚生医療センターから、秋田大学医学系研究科に本研究計画書で定めた情報の提供を受けます。情報は個人が特定できないよう氏名等を削除し、記録媒体により秋田大学へ提供します。対照表は秋田大学の研究代表者が保管・管理します。各機関における個人情報の管理方法は各機関の規定に従います。

5. 研究組織

秋田大学医学部附属病院 研究責任者 飯島克則
本荘第一病院 研究責任者 小松大芽
市立横手病院 研究責任者 藤盛修成
JCHO 秋田病院 研究責任者 須藤智行
由利組合総合病院 研究責任者 高橋壮
大曲厚生医療センター 研究責任者 小野地研吾

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：秋田大学医学部附属病院 総合臨床教育研修センター
職名：特任助教
氏名：福田 翔
住所：秋田市広面蓮沼 44-2
連絡先電話番号：018-884-6104

研究代表者：

研究機関の名称：秋田大学
所属：秋田大学大学院医学系研究科 消化器内科学・神経内科学講座
職名：教授
氏名：飯島 克則

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称：

国立大学法人秋田大学大学院医学系研究科
研究科長 羽渕 友則